



すわっ子だより

学校教育目標 ともに伸びる子
かしこく ゆたかに たくましく
令和5年6月30日(金)
第4号 発行責任者 渋谷 恵子
在籍児童数144名
<http://higashiiwatsuki-e.saitama-city.ed.jp>

「わかる」「できる」ようになるために

校長 渋谷 恵子

梅雨時の青空は沈みがちな気分も晴れて嬉しい反面、一気に気温があがり暑さに慣れていない身体はげんなりといった様子。そんな中、児童たちが待ち望んでいた水泳学習が先週から始まり、新たなめあてをもって取り組んでいます。学校行事等も一段落した6月は、学習も一層充実して取り組む様子が多く見られました。その様子を紹介します。

2年生の国語の時間。皆、集中して硬筆の作品を真剣に書いています。黒板には、「ゆっくり」「大きく」「こく」の文字。一人ひとり書いた作品を見てみると、以前書いたものより明らかに大きい文字、十分な筆圧で濃く書かれていることが分かりました。一人の児童に「字が大きくなって濃くかけているね。どうしたの。」と聞いてみました。すると「ゆっくり書いた」とのこと。さらに担任が一言、「前に自分が書いたものと比べてごらん」と児童たちに声を掛けました。すると、多くの児童が、格段に上達している様子が一目で分かったようです。書いている途中の児童も、見比べたとたんに自分の字が明らかに変化していることに気づいて興奮気味。達成感を味わったある児童が言った一言は、「これをおばあちゃんに見せに行こう。」でした。そのくらい「できた」という実感があったのだと思います。

こんなこともありました。ひまわり学級の5年生の児童が担任と共に「ちょうちょ」を見せに来てくれました。あまり見たことがなく名前も分からないため、その児童は担任と相談してタブレットを使って調べたようです。すると「オオミズアオ」という名前だということが分かり、児童は早速写真と調べた名前を Teams に投稿し、全校児童に向けて紹介しました。すると他の児童や教職員から、「すごいね」というメッセージや「いいね」というスタンプが届きました。児童は担任と共にその後も観察を続け、卵を産んだ時の様子の写真や手書きの観察記録を続けて紹介していました。「知りたい」や「周りの人に認めてもらえた」という思いが更なる学びにつながったのだと思います。

学びの主役である児童たちの「わかった」「できた」を増やしていくために、どのような支援ができるか、日々試行錯誤の連続です。苦しい時もありますが、楽しくもあり、上手くいったときには心の中でガッツポーズです。教室や学校のあちこちで、こういった教職員と子どもたちの素敵なやりとりが繰り広げられているかと思うと、ワクワクして嬉しい気持ちになります。これからもすわっ子たちのわかった、できたを一つでも多く増やし、共に喜べる学校・教職員でありたいと思います。

しかし、そうは言っても「わからない、できない」ことへの悩みは尽きないものです。勉強嫌いな子や勉強の成果を挙げられず悩む子に向けて、学校法人目白学園理事長の尾崎春樹氏が、自校の中高生に伝えたアドバイスが紹介されていました。

- ・今の学び方によって知識はもちろん、ものの見方や思考力、表現力が培われ、自分の可能性が広がる。(だから今、嫌い、面白くないと言って逃げないで!!)
- ・学びの努力と成果は正比例しない。
(最初、努力は成果に結びつきにくい、辛抱強く努力を続けると突然成果がでるよ!!)
- ・学びを確かに修得できるかは、間違ったとき、分からなかった時のフォローで決まる。
(なぜ間違ったか、納得するまで突き詰める。何が理解できていないのかあいまいにしない心掛けが成果につながる!!) [内外教育 令和5年6月16日(金) 時事通信社 発行]

児童たちと共に、丁寧に、根気強く取り組んでまいります。保護者・地域の皆様には、ご理解ご支援のほど、お願い申し上げます。